



ショパン国際ピアノ・コンクール



2025年10月に、ワルシャワ・フィルハーモニーにて開催された「第19回ショパン国際ピアノ・コンクール」。その優勝者リサイタル日本公演が同年12月に開催され、入賞者ガラ・コンクール日本公演が2026年1月に開催されます。開催を記念して、当館で所蔵している関連レコードをご紹介します。

世界から若き才能が集う、伝統ある登竜門「ショパン国際ピアノ・コンクール」(参考: <https://chopin.japanarts.jp/>)

ショパン国際ピアノ・コンクールは5年に一度、ポーランド・ワルシャワで開催される、世界最高峰のピアノコンクール。1927年に創設され、約100年の歴史を誇る。ショパンの音楽への深い理解と比類なき表現力が求められ、アルゲリッチやツィメルマンら多くの巨匠を輩出してきた。世界中の若き才能が憧れ、挑む、夢と情熱の舞台。

フレデリック・フランソワ・ショパン (1810～1849) (参考:『クラシック作曲家辞典』中河原理/監修)

ワルシャワ近郊の村に生まれ、幼いころから母や姉にピアノを教わる。8歳にしてラジヴィウ宮殿の公開演奏会に出演し、絶賛を博した。中学時代の三年間、ワルシャワ音楽院院長のエルスネルに和声と対位法を師事。休暇の折には国内各地を旅してまわり、ポロネーズやマズルカなどの民族音楽にも触れた。

音楽院を卒業してからウィーンで行った自作のプログラムによる演奏会は大成功を収め、国際的な音楽家として名を馳せる望みを抱いたが、政府に掛け合った外国留学は実現せず。自費でウィーンへと旅立つも、当時のポーランドはロシア、オーストリア、プロイセンの三国に領土を奪われた状態が続いており、反ポーランドの意識から、彼の活動の場はなかった。帰国後にポーランド革命軍の敗北を知り、パリに赴くと、最初の演奏会で成功を収める。やがて彼はパリ社交界の花形となり、音楽はもちろん、詩人や画家たちとの交流を深めた。その後、肺結核を患うも作曲に没頭。長期のロンドン旅行から帰った後、病床に臥し、パリの自宅にて三十九年という短い生涯を閉じた。遺体はパリの墓地に葬られたが、心臓だけはワルシャワの聖十字架教会に安置されている。

■ 一覧

資料名	録音年	請求記号	資料コード
軍隊ポロネーズ*小犬のワルツ	1961～68	TC13811	1400427223
ショパン珠玉集：ベスト・オブ・ショパン	1973	TC13774	1400426852
ショパン 夜想曲全集	1977	TC13498	1400424113
小犬のワルツ：アントルモン・ショパン名曲集	1978	TC13794	1400427058
CHOPIN	1980	TC13138	1400420517
ショパン・バイ・スターライト	—	TC10768	1400396972
ピアノ協奏曲第1番ホ短調作品11	—	TC13481	1400423941
ショパンの心	—	TC13751	1400426621
別れの曲：珠玉のショパン・ピアノ名曲集	—	TC13773	1400426845
ホーム・ミュージック・デラックス：第7巻：ショパン名曲集	—	TC13826	1400427371

本リストの資料は、1階視聴覚室前のガラスケースにて展示しています。

なお、本リストの資料はすべて館内鑑賞のみ利用可能です。鑑賞をご希望される場合は、視聴覚室の職員にお声がけください。

また、本リスト以外にも関連の所蔵作品がございます。お気軽にお問い合わせください。